

# 1 自己評価及び外部評価結果

# (ユニット名 グループホームつばさ原町 - 八幡)

事業所番号	0691600035		
法人名	株式会社 ユニバーサル山形		
事業所名	グループホーム つばさ原町		
所在地	天童市大字原町145-1		
自己評価作成日	平成31年 1月16日	開設年月日	平成26年 3月28日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

天童市内の公園の北側に緑豊かな環境に位置し、また近くにショッピングセンターもあり気軽に買い物等に出掛けられます。小規模多機能と併設しており、その利用者とも気軽に交流があり、一緒に行事を行うなど楽しく生活しています。そうした環境の中で開設時に掲げた理念を元にながら利用者の方々が『明るく・楽しく・笑って』過ごせるように日々取り組んでいます。また、系列事業所の理学療法士等が週2回訪問してくれ利用者の心身機能の評価やリハビリを行っています。ADL自立されている方とADL低下が見られる方と混在しておりますが一人ひとりのペースで元気に楽しく過ごしていただけるように支援していきたいと思っております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して5年目であるが、町内会に加入し総会に参加することで地域の盆踊りへの参加の声掛けを頂く等交流の拡大の成果が見られる。事業所の秋祭りでは地域の方がたくさん参加され、その収益を地域小学校に寄付する等、地域との付き合いを大切にしている。毎月行事として西蔵王公園やバラ園、運動公園への外出や個別支援として露天風呂への外出等普段いけない場所への外出に力を入れている。看取り等重度化に向けては、状況に応じて家族、医療機関、事業所で話し合いの場が持たれ、方針の共有を大切にしている。看取り等の実績については医療機関と訪問看護ステーションと連携し支援している。訪問リハビリによるマッサージや歩行訓練の指導等多職種との連携した支援も行われている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市検町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成 31年 2月 22日	評価結果決定日	平成 31年 3月 7日

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時、毎朝「理念の唱和」を皆で行っている。	「明るく、楽しく、笑ってすごせるよう」「暮らしの中で持てる力を発揮し」「慣れ親しんだ方や地域の交流」を理念とし唱和しながら共有している。管理者は、地域との交流が拡大していることにその実施状況の成果を感じている。職員も利用者第一で楽しく過ごせるよう対応することや、利用者の家にいるように接し、毎日笑顔になれるよう普段から関わり、理念の実践に努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設内の行事や地域行事など催しなどあれば積極的に参加し交流するようにしている。	小中高生のボランティアや訪問、地域ボランティアの訪問等が見られる。町内会に加入し、総会に参加することで地域の盆踊りへの参加の声掛けを頂き交流の拡大の成果が見られる。地域行事や作業への参加は当然ながら、事業所の秋祭りでは地域の方がたくさん参加されている。その収益を地域小学校に寄付する等、地域との付き合いを大切にしている。事業所の「お便り」を回覧板に挟み地域への情報発信も行われている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事や施設行事などを通して行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議に利用者様代表も参加したり施設での取り組みや今後の話し合いを連絡・報告・相談などサービスに活かさせて頂いている。	地区会長、民生委員、包括職員、市職員、利用者で2か月に1回開催されている。会議では、事業所の行事や事故報告、写真を使った活動報告が行われている。委員からは、地域交流への情報提供や助言、「お便り」の回覧、事故事例に対する質問や意見等が表され、質疑を通してサービスの向上に活かしている。	利用者家族の参加が見られず、昨年同様働きかけの継続を期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護相談員の方が定期的に来所し見学頂いたりアドバイスを貰っている。	運営推進会議や介護相談員の訪問を通して、事業所の現状や取組を理解していただいている。利用者に関わる個別具体的な問題には、窓口と連携し協力しながら解決に向け取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	1階2階の移動もエレベーターで自由に往復したり玄関も日中は鍵をかけず過ごしている。身体拘束は行っていない。	勉強会や指針、マニュアルを通して職員に周知している。職員も禁止の対象となる具体的な行為等理解している。普段のケアの中で不適切な対応など無い会議等で話合っている。帰宅願望の強い方には、安易に否定せず、寄り添いながら一緒に外出する等気分をやわらげ、安全を確保し、鍵をかけずに過ごす工夫をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月、行われている定例会議や常に職員同士が観察しあうことで施設内、家族内の虐待の未然防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月の定例会議の中でも話し合いを持ったり、それらを利用する利用者様との橋渡しなども行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は介護職員は行っていないが、ご本人やご家族の不安や疑問点をスピーディーに解決するように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族面会の際はご要望や心配などの話も会話の中に織り交ぜたり、玄関に意見箱を設けている。	毎月の家族へのお便りや面会時、家族の参加する行事等を通して、職員との関わりの中で信頼関係を大切に、意見等表しやすい関係を作っている。管理者は「家族会」等を検討し、より深い繋がりの強化を考えている。2か月に1回介護相談員の訪問があり、利用者が外部者に意見等表す機会となっている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員の意見や提案を個々に聞いたリユニット会議等で発言し、検討反映させている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働けるよう意見を聞き環境を整える様、努力している。			
13	(7)	○職員を育てる取組み  代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外研修を受ける機会を確保し知識・技術向上に努めている。	毎月の会議の中で担当者を定め、事業所の現状に応じた勉強会を行っている。口腔ケアや感染症対策、看取り等の勉強会が開催され、学ぶ機会となっている。外部研修へは、希望や職責に応じて派遣し、今年度は新しく取り入れたアセスメント方式が外部研修の成果となっている。	職員一人ひとりのケアの実際や力量の把握に資するため、職員の自己評価や目標管理等の検討を期待したい。	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修等に参加する事で同業者との交流する機会を得ている。	グループホーム連絡協議会による、認知症カフェを他事業所と連携しながら実施している。また天童市内の地域密着型サービス事業所が集まって情報交換等新たな取り組みも始めている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人と話しながら心配ごとなどを引き出し安心して利用して頂けるよう工夫している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方にも協力いただき、利用者様の経歴を聞いたり、サービスに関しての内容の説明をしっかりと行うようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と家族と面談し、サービスについてどのような支援を望まれるかを聞くようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できること的能力を引き出すよう努力し、ご本人の自信に繋げる所から信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の変化を密に報告し、ご本人の気持ちを代弁したりしている。毎月ご家族へお便りも出している。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙・電話・面会などを通じ、馴染みの方との交流が途切れないようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性に応じて座席を考慮したり支え合い、関わり合える環境作りをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域でお会いした際は、挨拶や声掛けなど行わせて頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いを出来るだけ汲み取り、出来る限りの支援を行えるよう努めている。	昨年の目標達成計画に従い、利用者の思いを深く見つめるため、センター方式アセスメントに取り組んでいる。職員はその取り組みにより新たな「気づき」が生まれ、意向の把握に成果を感じている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	できるだけ生活歴・職歴を把握し、サービス向上に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活のペースや状態を見ながらケアを行うよう努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族様との話は面会時に情報提供したり相談に応じたりし、日々職員と現状を話し合い、計画を実施している。	3ヶ月ごとモニタリングを行い6ヶ月ごと計画の見直しを行っている。見直しに当たっては、会議で職員の意見を取り入れ、家族の意向を反映しながら、利用者の「もてる力を」大切に計画の作成に努力している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果・気づきをしっかり記録し今後の介護計画の見直しに活かしている。			
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の小・中・高校生のボランティアの訪問により活き活きと生活している。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設に往診して下さる医師の他、ご家族様の希望により他の医療機関受診を行っている。	協力医療機関による毎月2回の往診があり、利用者や家族の安心に繋がっている。協力医療機関以外の通院では家族による支援であるが、看護師より情報提供が行われ、連携が図られている。往診等の結果は、看護記録に残され、特別な場合は速やかに電話等で家族に報告されている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日々の生活の気付きを随時、看護師へ報告、早産を行っている。</p>			
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>病院へ訪問し、現状を見て確かめて情報を共有している。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>方向性をご家族と話し合ったり、緊急時どうするかを具体化している。</p>	<p>看取り指針を基に早い段階から話し合いが行われ、状況に応じて繰り返し協議している。家族、医療機関、事業所で話し合いの場が持たれ、方針の共有を大切にしている。文書による意思確認も繰り返し確認されている。法人の訪問看護ステーションと連携し、家族の希望のもと看取り等の実績もある。</p>		
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>施設内にAEDの設置や緊急時の対応マニュアル作成をし、職員間で確認しあっている。</p>			
34	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>避難訓練を行い、利用者様が安全に非難する方法を確認している。</p>	<p>年二回消防署立ち合いのもと避難訓練が行われている。地区役員の見学も実施されている。地域の自主防災訓練の参加等相互連携に努力している。広域災害時には地域の避難場所としての自覚と役割を担い、自家発電等を整備している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとり、人格の尊重、プライバシーの確保をしっかりと守っている。	法人によるマナー研修を事業所でも共有するとともに、接遇の研修も計画している。事業所内での事例をもとに会議等で職員で話し合い、注意し合うことで不適切な対応の無いよう努力している。職員は親しみのあまり馴れ馴れしくならぬよう努力するとともに、目線を合わせて敬意をもって接することに心掛けている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ本人に選択して頂けるよう、工夫している。			
37		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとり、自分のペースに合わせて日常を過ごして頂ける様、支援している。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者本人が好みの服を選択し、おしゃれができる様、支援している。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者や職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様にお茶を汲んで頂いたり、食器を拭いたり協力し合い、楽しんで食事を摂って頂いている。	食事は外部委託をしているが、一品は事業所内で調理し、利用者や共同で出来るよう工夫し、家庭的な食事になるよう努力している。外食や行事食等イベントとして食事にアクセントをつけ、楽しみなものになるよう工夫している。職員と利用者がすべて調理する、「原町カフェ」の取組も始められている。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理された食材を配達してもらい確保されている。水分は食事の時以外にも、お茶・コーヒー・入浴後の水分補給等にこまめに接種している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前のうがい、食後の口腔ケア(歯磨き)を本人に任せきりではなく、職員見守り又は支援している。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄習慣、トイレでの排泄を基本となる様、時間を決めてトイレ誘導を行い、失禁軽減に繋げている。	排泄チェック表を基に適時の声掛け誘導によりトイレでの排泄の支援を行っている。実際に、おむつから自立に向け効果が上がった利用者もいらっしゃる。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や軽体操等、便秘予防となる働き掛けを行ったり便秘日数を常時管理し服薬による排便コントロールも行っている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本の曜日を設定し、ご本人に説明し、入浴してもらっている。尚、汚染時には適時入浴して頂くようにしている。	事業所には機械浴の設置があり、身体状況に応じて安全に入浴することができる。入浴を好まない方にも声掛け等工夫し清潔に過ごせるように支援している。個別支援で温泉へ出かけた事例もあり、また、併設する事業所の足湯等入浴を楽しむ事ができるよう工夫している。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	湯たんぽや暖かいシーツを敷いたり、居室の温度、湿度にも配慮している。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書により情報を共有し理解し利用者に少しでも変化が見られた時にはスタッフ間や看護師へ報告している。			
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活で出来る事は声掛けし、職員と一緒に役割をこなしてもらったり、毎日レクリエーションやお茶会など利用者様と一緒に楽しんで笑顔で過ごすようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月1回外出を企画し実行している。外食、行き先等利用者様の希望も取り入れ決めている。又、天気の良い日や時節の催し物等、企画無しで行う場合も多々ある。	毎月行事として西蔵王公園やバラ園、運動公園等普段いけない場所への外出や個別支援の外出、外食、買い物等の外出支援も行われている。また、日常的な散歩や畑等外気浴も大切にしている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段お金を使う時はないが、秋祭りや施設内出店イベント、各自お金を持ち、買物する機会を作る。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持する利用者様や曜日を決め、週1回後家族に電話する方や日常必要に応じて利用者様より希望に応じ連絡している。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室、フロア等共有の空間での不快になる様な事を避け、清潔に心がけ花を活けたり、季節感を楽しんで頂くとともに、広いフロアでゆっくりくつろげる様、心掛ける。	温度や湿度が管理されているとともに清掃も行き届き清潔感がある。掲示されている外出等思い出の写真は利用者の笑顔がいっぱいであった。居間食堂は広く、季節感のある飾りつけや利用者の作品が掲示され、食卓やソファが配置され、思い思いに過ごせる空間である。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内ではテーブル席やソファ席等、自由に過ごしていただき、又気のあった方同士、同席されたりして思い思いすごされている。			
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自信の馴染みの品物を置いたり使い慣れた物をご家族に持参して頂き、自身が居心地よく過ごせる居室作りを利用者本人と家族で作って頂いている。	利用者の馴染みのものや使い慣れたものが持ち込まれ、それぞれが思い思いに家具の配置や飾りつけがなされ、テレビの設置もあり、居心地よく過ごせるよう工夫されている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が見て分かる絵や文字で場所を表したり、手すりやバリアフリーで安全に生活動作ができる様にしている。			